

スーパーマーケット販売統計調査資料

2016年4月実績 速報版(新パネル 270)

3月実績 確報版(旧パネル 275)

2015年度実績 確報版(旧パネル 275)

(2016年5月20日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2016年5月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年4月実績 速報版 (新パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	85,409,003	100.0%	103.5%	101.7%
食品合計	76,357,390	89.4%	103.9%	102.1%
生鮮3部門合計	28,942,105	33.9%	102.8%	100.8%
青果	11,905,269	13.9%	103.5%	101.6%
水産	7,589,641	8.9%	102.3%	100.3%
畜産	9,447,195	11.1%	102.3%	100.3%
惣菜	8,346,785	9.8%	104.5%	102.4%
日配	16,462,608	19.3%	104.7%	102.7%
一般食品	22,605,892	26.5%	104.6%	103.1%
非食品	6,635,100	7.8%	100.8%	100.5%
その他	2,416,559	2.8%	95.8%	96.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,821,716	43	104.6%	102.6%
関東地方	31,318,407	73	103.3%	101.4%
中部地方	10,528,646	53	103.8%	102.8%
近畿地方	18,758,014	44	102.2%	101.0%
中国・四国地方	8,504,676	34	104.2%	101.1%
九州・沖縄地方	4,477,544	23	105.4%	103.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	771,704	47	100.7%	99.8%
4~10店舗	3,764,783	69	101.5%	101.1%
11~25店舗	9,819,703	65	100.9%	100.4%
26~50店舗	16,178,127	46	103.3%	101.2%
51店舗以上	54,874,686	43	104.1%	102.2%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	82,878,876
総店舗数 (店舗)	7,693	店舗平均月商 (万円)	11,102
総売場面積 (㎡)	12,632,771	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2016年5月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年3月実績 確報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,975,628	100.0%	103.0%	101.0%
食品合計	77,979,492	89.7%	103.5%	101.6%
生鮮3部門合計	29,741,957	34.2%	102.9%	100.6%
青果	12,093,195	13.9%	103.9%	101.6%
水産	8,153,068	9.4%	102.4%	100.5%
畜産	9,495,694	10.9%	102.1%	99.4%
惣菜	8,500,622	9.8%	105.0%	102.2%
日配	16,650,590	19.1%	104.8%	102.7%
一般食品	23,086,323	26.5%	102.9%	101.9%
非食品	6,362,700	7.3%	99.5%	98.8%
その他	2,633,482	3.0%	97.7%	97.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,096,900	49	101.9%	100.0%
関東地方	30,986,094	70	102.8%	100.7%
中部地方	10,274,088	58	103.1%	101.1%
近畿地方	17,669,274	34	103.6%	102.1%
中国・四国地方	8,684,814	36	104.5%	100.6%
九州・沖縄地方	5,264,458	28	102.8%	101.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	920,662	57	101.6%	101.8%
4~10店舗	3,771,963	68	101.5%	100.6%
11~25店舗	9,645,136	62	100.8%	100.0%
26~50店舗	16,169,172	45	103.8%	100.5%
51店舗以上	56,468,694	43	103.3%	101.4%

集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	84,327,924
総店舗数 (店舗)	7,528	店舗平均月商 (万円)	11,554
総売場面積 (㎡)	12,804,462	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2016年5月20日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2015年度実績（パネル275）確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,038,864,132	100.0%	104.4%	102.3%
食品合計	922,528,720	88.8%	104.9%	102.7%
生鮮3部門合計	351,024,724	33.8%	105.1%	102.7%
青果	141,472,550	13.6%	106.5%	104.3%
水産	94,195,422	9.1%	103.6%	101.2%
畜産	115,356,752	11.1%	104.7%	102.1%
惣菜	101,423,585	9.8%	106.4%	103.6%
日配	197,121,391	19.0%	104.7%	102.5%
一般食品	272,959,020	26.3%	104.2%	102.3%
非食品	81,069,349	7.8%	100.6%	99.9%
その他	35,266,063	3.4%	98.8%	98.9%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	164,478,667	49	104.0%	102.2%
関東地方	369,300,236	70	104.8%	102.4%
中部地方	123,913,968	58	104.1%	102.1%
近畿地方	215,013,337	34	103.3%	101.8%
中国・四国地方	103,063,491	36	106.2%	102.8%
九州・沖縄地方	63,094,432	28	104.0%	103.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	10,846,372	55	101.1%	101.1%
4～10店舗	45,004,204	69	102.3%	101.8%
11～25店舗	120,929,634	64	102.9%	101.2%
26～50店舗	185,269,423	44	104.4%	102.3%
51店舗以上	676,814,499	43	104.8%	102.6%

※保有店舗数カテゴリーは2015年1月時点での保有店舗数による分類

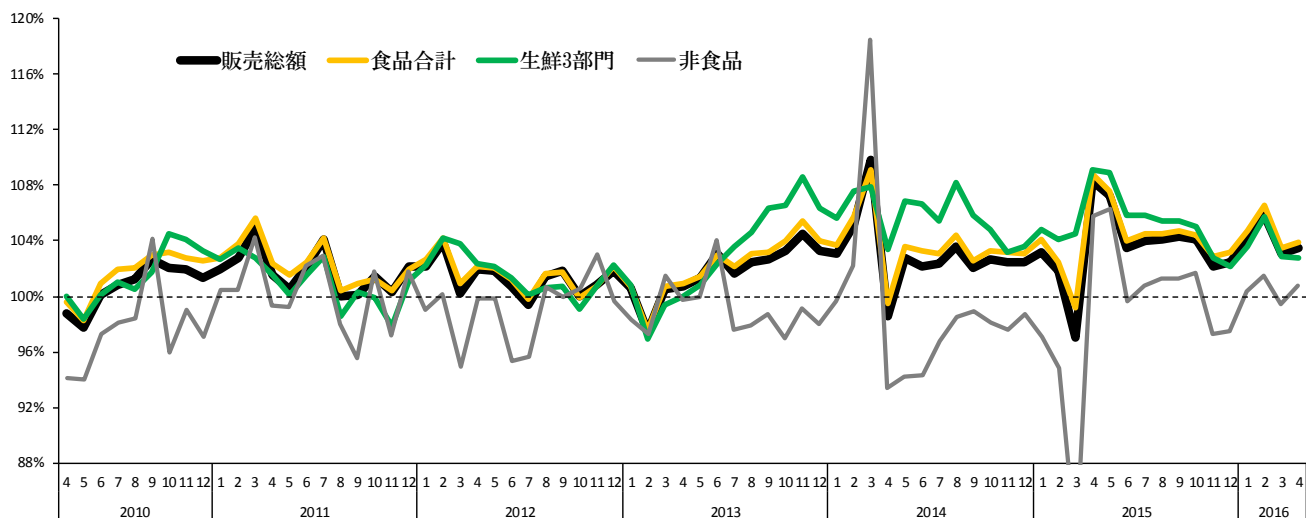
集計企業数（社）	275	既存店総売上高（万円）	1,006,727,202
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

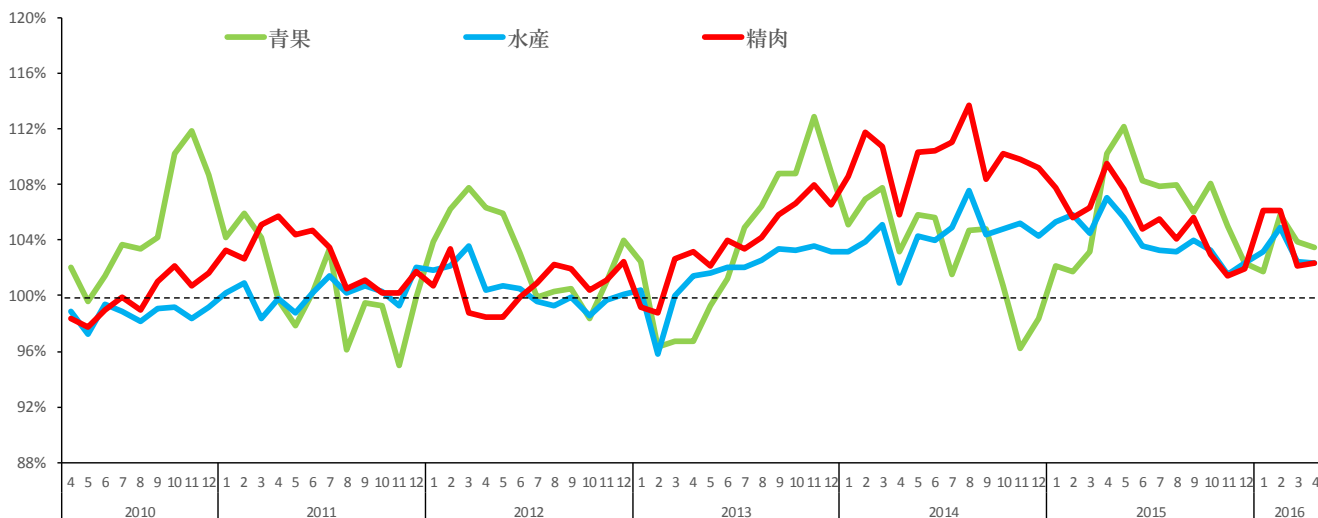
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2016年4月(全店ベース対前年同月比)

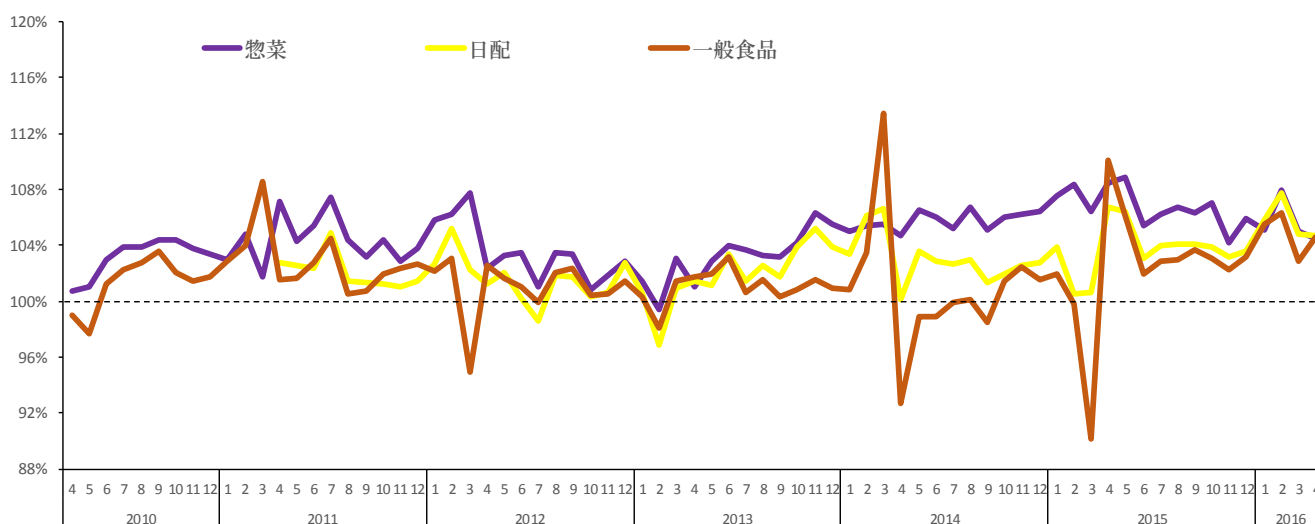
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2016年3月までは確報版による前年同月比、2016年4月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2016年4月エリア別気候状況

1. 平均気温：全国的に高温で、東日本以西では気温の高い状態が続いた

上旬：全国的にかなり高かった。

中旬：東・西日本と沖縄・奄美で高く、北日本では平年並だった。

下旬：西日本で高く、東日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。北日本は平年並だった。

2015年4月との比較：上旬は関東を中心にかなり高く、下旬は北海道・東北でかなり低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2016年4月			2015年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.9	0.1	-0.4	0.3	0.5	3.4	1.6	-0.4	-3.8
東北地方	1.8	1.1	0.6	0.0	1.0	3.1	1.8	0.1	-2.5
関東甲信地方	2.6	1.3	1.3	-0.1	0.0	2.5	2.7	1.3	-1.2
北陸地方	3.4	0.7	0.2	0.1	0.5	2.1	3.3	0.2	-1.9
東海地方	2.6	1.1	1.1	0.4	-0.1	2.0	2.2	1.2	-0.9
近畿地方	3.2	0.9	0.7	1.3	0.4	1.8	1.9	0.5	-1.1
中国地方	3.2	0.8	0.4	1.2	0.2	1.4	2.0	0.6	-1.0
四国地方	2.9	1.1	0.9	2.0	0.7	1.2	0.9	0.4	-0.3
九州北部	3.0	1.4	0.5	2.2	0.4	0.9	0.8	1.0	-0.4
九州南部・奄美地方	2.4	1.1	0.6	3.3	1.2	0.4	-0.9	-0.1	0.2

平年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

前年差

+2°C以上
+1°C以上

-2°C以上
-1°C以上

2. 日照時間：東日本太平洋側と西日本では、日照時間が少なかった

上旬：東日本太平洋側と西日本でかなり少なく、北日本日本海側と沖縄・奄美では多かった。

中旬：東・西日本で多かった。一方、北日本日本海側ではかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。

下旬：北日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側と西日本では少なかった。

2015年4月との比較：中旬は全国的にやや多く、下旬は全国的に少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2016年4月			2015年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	110	66	105	111	73	154	-1	-7	-49
東北地方	96	100	99	78	70	165	18	30	-66
関東甲信地方	58	127	85	39	74	134	19	53	-49
北陸地方	97	124	87	50	63	166	47	61	-79
東海地方	50	121	85	27	65	128	23	56	-43
近畿地方	55	130	82	31	71	138	24	59	-56
中国地方	74	129	87	43	75	150	31	54	-63
四国地方	51	128	85	24	74	117	27	54	-32
九州北部	64	115	67	40	70	133	24	45	-66
九州南部・奄美地方	45	115	67	43	76	114	2	39	-47

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

3. 降水量：全国的に降水量が多かった

上旬：全国的に多く、北日本太平洋側でかなり多かった。

中旬：沖縄・奄美ではかなり多く、北日本日本海側で多かった。

下旬：北・東日本太平洋側と沖縄・奄美で多く、東日本日本海側と西日本ではかなり多かった。

2015年4月との比較：中旬は全国的にかなり少なく、下旬は全国的にかなり多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2016年4月			2015年4月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	93	167	80	208	217	17	-115	-50	63
東北地方	256	77	151	153	198	15	103	-121	136
関東甲信地方	131	69	151	117	197	10	14	-128	141
北陸地方	150	88	181	193	226	6	-43	-138	175
東海地方	184	91	181	118	167	3	66	-76	178
近畿地方	181	93	157	165	159	4	16	-66	153
中国地方	167	71	257	303	130	2	-136	-59	255
四国地方	206	68	173	218	163	21	-12	-95	152
九州北部	150	112	236	218	172	52	-68	-60	184
九州南部・奄美地方	76	76	230	115	142	82	-39	-66	148

平年差

平年比150%以上
平年比125%~149%

平年比50%以下
平年比51%~75%

前年差

+50%以上
+25~49%

-50%以下
-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「4月の気候」参照
平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2016年5月調査結果（4月実績）
（2016年5月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は小幅に改善も、見通し判断は弱含みな傾向が続く

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+0.6の47.3、見通し判断は前月から-0.4の43.4となり、現状判断は小幅に改善するも、見通し判断は小幅に低下した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIともにわずかに上昇し、底堅く推移している。気温の上昇や土曜日が一日多い曜日めぐりを背景に客単価DIが上昇したことが支えとなっている。一方で、来客数DIは低迷を続けているほか、仕入原価の低下により、販売価格も低下傾向がみられている。

カテゴリー動向結果では、これまで好調を牽引してきた生鮮品では、青果DIのみわずかなプラスとなっているものの、畜産DI、水産DIはマイナスとなった。行楽需要が好調であった惣菜や機能性ヨーグルトが引き続き好調な日配DI、気温上昇や熊本地震による影響で一般食品DIがプラスとなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断はやや持ち直しをみせているものの、見通し判断は総じて弱含みな結果となっている。また、長期トレンドでは現状判断、見通し判断共に引き続き下降傾向が続いている。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

足元では、売上や収益は、共に底堅い推移を続けているものの、来客数の低迷が続くなか、仕入原価や販売価格が下降傾向にあり、先行きへの不安が強まっている。現在は、価格上昇による売上増の好循環が試金石をむかえている局面であり、今後の動向を十分に注視していく必要がある。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 47.3 (+0.6) 前月：46.7	消費者購買意欲DI 当月： 48.1 (+1.8) 前月：46.3	周辺地域 競合状況DI 当月： 43.2 (-0.1) 前月：43.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 47.4 (-0.3) 前月：47.7
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 43.4 (-0.4) 前月：43.8	消費者購買意欲DI 当月： 44.7 (-0.5) 前月：45.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 41.5 (-0.2) 前月：41.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 46.4 (±0) 前月：46.4
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -0.6 (+0.4) 前月：-1.0	客単価DI 当月： 6.3 (+1.7) 前月：4.6	来客数DI 当月： -7.1 (-1.1) 前月：-6.0	
収益DI 当月： 1.5 (+1.7) 前月：-0.2	販売価格DI 当月： 5.3 (-1.6) 前月：6.9	生鮮品仕入原価DI 当月： 7.4 (-3.6) 前月：11.0	食品仕入原価DI 当月： 8.4 (-1.0) 前月：9.4

カテゴリー動向

青果DI 当月： 1.9 (-2.8) 前月：4.7	水産DI 当月： -2.4 (-2.0) 前月：-0.4	畜産DI 当月： -1.2 (+0.4) 前月：-1.6	
惣菜DI 当月： 6.1 (+2.0) 前月：4.1	日配DI 当月： 5.1 (+0.6) 前月：4.5	一般食品DI 当月： 3.4 (+4.2) 前月：-0.8	非食品DI 当月： -4.8 (+2.0) 前月：-6.8

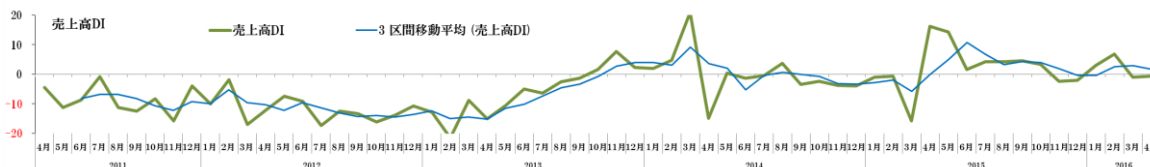
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

5月調査（4月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

わずかに上昇をみせ、底堅い推移が続く

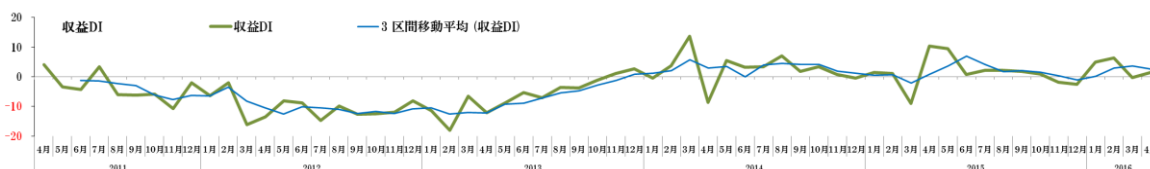
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	4.3	30.5	32.4	30.5	2.4	-1.0
売上高（当月）	3.5	29.7	34.3	30.8	1.7	-0.6



2. 収益DI

わずかに上昇をみせ、底堅い推移が続く

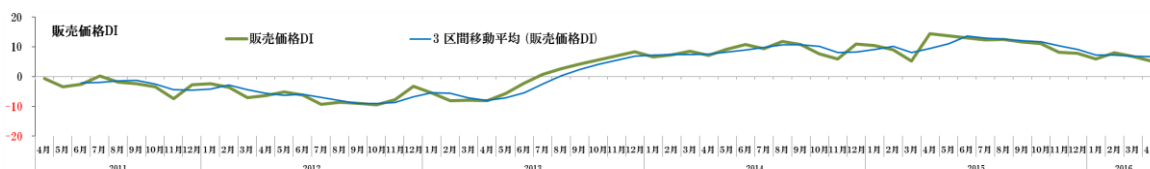
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	3.9	28.0	37.2	27.1	3.9	-0.2
収益（当月）	1.2	28.0	36.9	31.5	2.4	1.5



3. 販売価格DI

小幅に低下し、下降傾向が継続

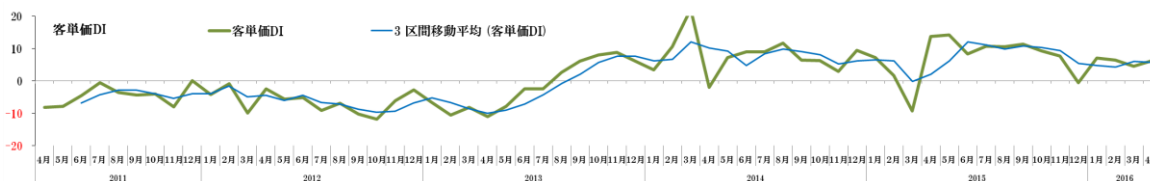
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	5.8	61.1	33.2	0.0	6.9
販売価格（当月）	0.0	11.8	55.0	33.1	0.0	5.3



4. 客単価DI

小幅に上昇をみせ、底堅く横ばいで推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	14.4	51.4	33.7	0.0	4.6
客単価（当月）	0.6	14.1	44.7	40.6	0.0	6.3



5. 来客数 DI

小幅に低下し、弱含みな状況が続く

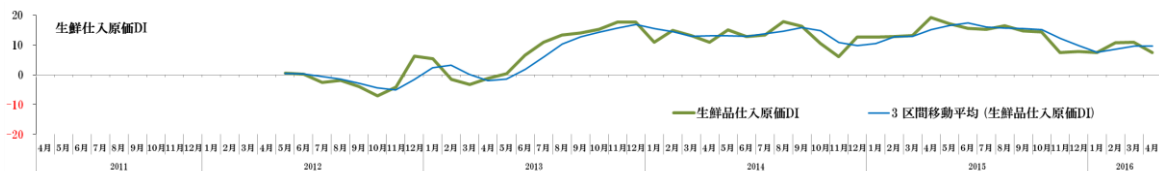
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.3	35.7	40.5	18.6	1.0	-6.0
来客数 (当月)	6.5	37.6	34.7	20.0	1.2	-7.1



6. 生鮮仕入原価 DI

当月は低下するも、横ばいでの推移が続く

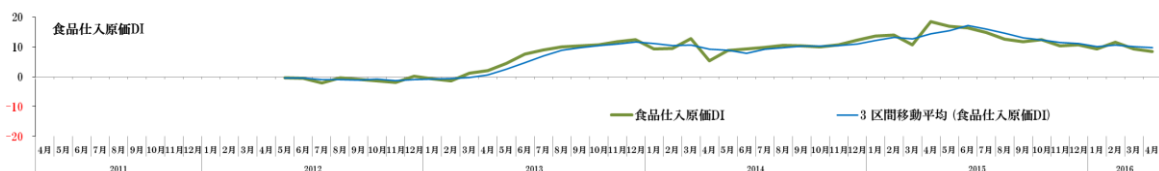
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.5	4.9	46.3	42.9	4.4	11.0
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	7.9	55.2	33.9	2.4	7.4



7. 食品仕入原価 DI

小幅に低下し、ゆるやかな下降傾向が継続

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.5	3.9	52.2	40.5	2.0	9.4
食品仕入原価 (当月)	0.6	6.6	54.2	35.5	3.0	8.4

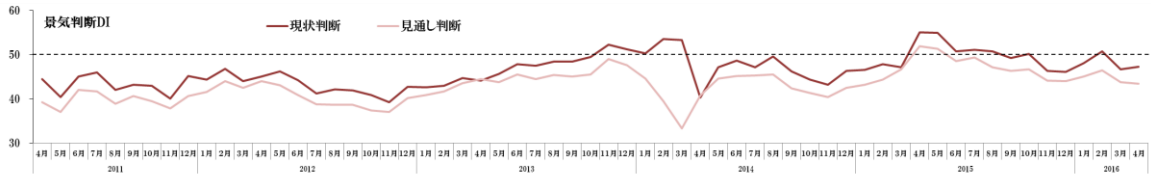


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景況判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は小幅に改善も、見通し判断は小幅に悪化

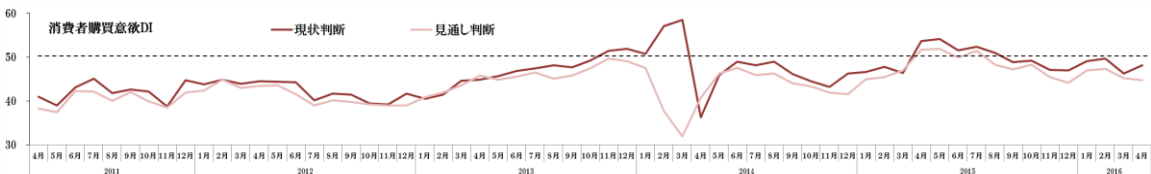
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.4	22.0	65.1	11.5	0.0	46.7
【現状】景況判断 (当月)	1.7	20.2	65.3	12.7	0.0	47.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	3.3	25.8	63.2	7.7	0.0	43.8
【見通し】景況判断 (当月)	4.0	27.0	60.3	8.6	0.0	43.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は改善も、見通し判断は小幅に悪化

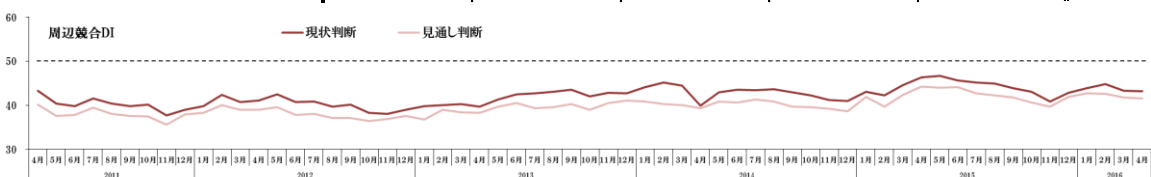
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	23.1	68.8	8.2	0.0	46.3
【現状】購買意欲 (当月)	1.2	15.6	72.8	10.4	0.0	48.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.0	23.2	70.0	5.8	0.0	45.2
【見通し】購買意欲 (当月)	2.9	21.8	69.0	6.3	0.0	44.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に横ばいでの推移

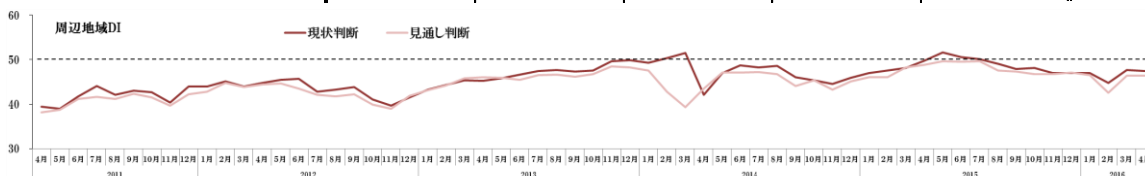
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.9	24.4	69.4	3.3	0.0	43.3
【現状】競合状況 (当月)	2.3	26.0	68.2	3.5	0.0	43.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.8	24.0	67.8	2.4	0.0	41.7
【見通し】競合状況 (当月)	5.7	25.9	64.9	3.4	0.0	41.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通し判断共に横ばいでの推移

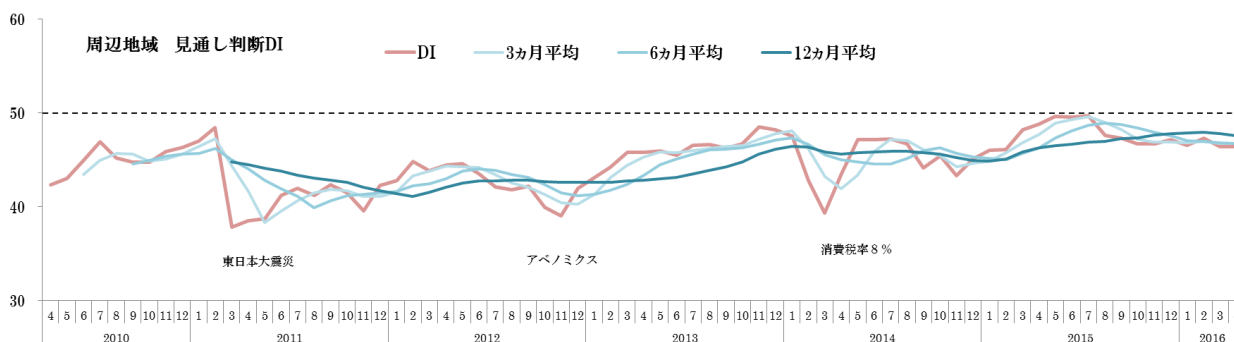
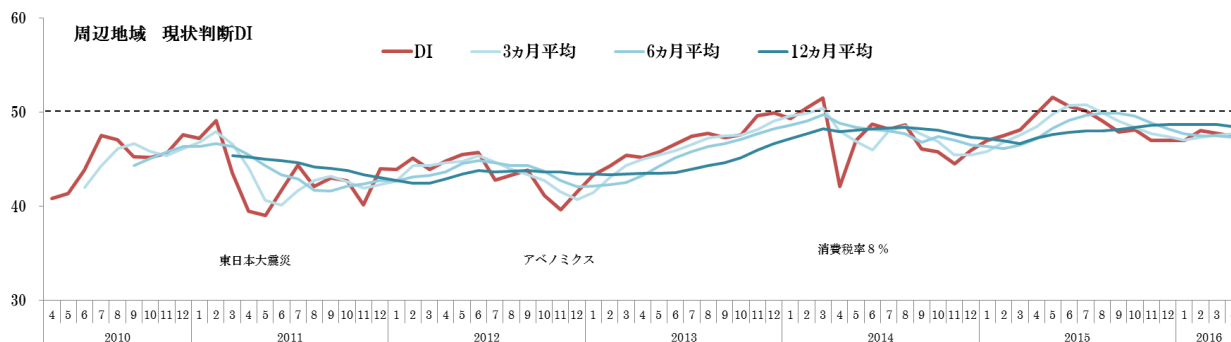
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	13.5	82.1	4.3	0.0	47.7
【現状】地域景気(当月)	0.0	14.5	81.5	4.0	0.0	47.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.5	16.4	80.2	2.9	0.0	46.4
【見通し】地域景気(当月)	2.3	13.9	79.8	4.0	0.0	46.4



長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。5月に一旦持ち直し、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月は再び悪化した。その後、12月以降6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで回復をみせた。しかし、6月以降は一転して下落が続き、11月は下落の速度がやや早まった。12月以降はやや持ち直し、底堅く推移していたが、直近2016年3月では再び下落している。

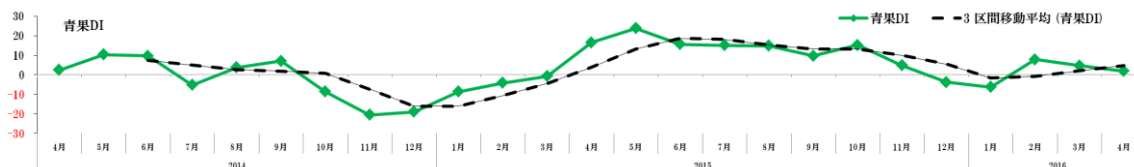
その結果、12ヵ月移動平均は、2015年2月以来、13ヵ月ぶりにマイナスを記録したほか、他の平均線もマイナス推移を続けており、引き続き弱含みな状況が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：1.9（やや好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	4.0	20.2	34.3	35.9	5.6	4.7
青果（当月）	3.6	25.7	35.3	29.9	5.4	1.9

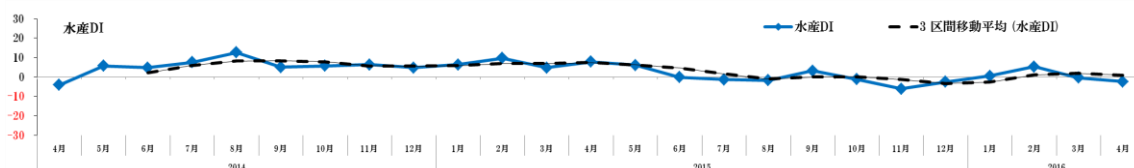


青果相場は、前半はやや高値、後半は下落するなど上下に幅のある動きとなりました。熊本地震の影響で、一時的に供給が滞るなど入荷が不安定となりました。

月を通じて気温が高く、サラダ関連やカットフルーツが好調となりました。野菜の販売数量が伸び悩むなかで、輸入果物（オレンジ、バナナ、キウイ）が好調となっています。国産柑橘類やいちごは、地域により好不調が分かれる結果となっています。

2. 水産DI：-2.4（やや不調）

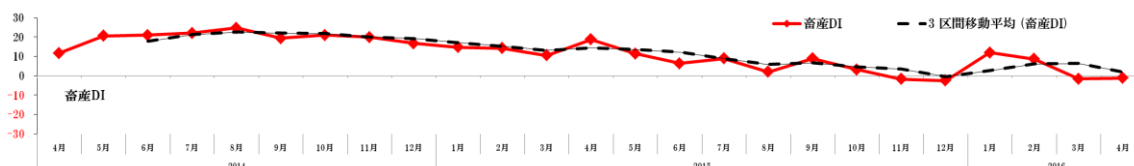
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	4.5	28.3	36.9	24.7	5.6	-0.4
水産（当月）	7.2	26.3	40.7	20.4	5.4	-2.4



生魚の入荷不足や相場高が続いており、やや不調となっています。気温の上昇により刺身類が好調とのコメントが多くなりました。アサリを中心とした貝類は熊本地震による入荷減により不振となっています。漁獲量の減少と相場高のマグロ、カツオは不調とするコメントが多くみられました。TV報道により海藻類（もずく、めかぶ）などは好調となっています。

3. 畜産DI：-1.2（やや不調）

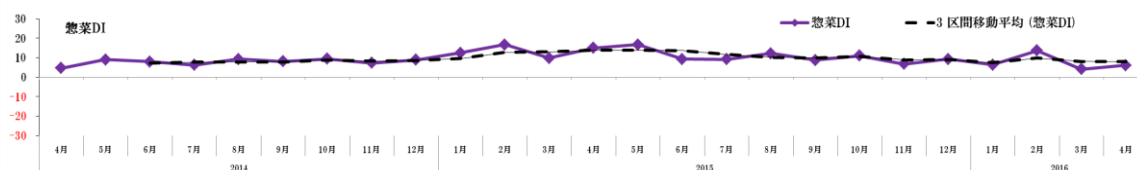
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.6	28.8	36.4	25.3	4.0	-1.6
畜産（当月）	3.0	30.3	37.6	26.7	2.4	-1.2



国産牛相場の高騰が続いている一方で、輸入牛や豚肉や鶏肉相場は低下傾向にあります。気温上昇に伴い、焼肉やバーベキュー用商材が好調となっています。国産牛は伸び悩みをみせているものの、輸入牛や豚、鶏の価格低下が数量増につながった店舗では、好調とのコメントが多くみられました。一方、行楽商材の代表ともいえるはずの、ソーセージやハムなどの加工肉は引き続き不調とのコメントが多くなっています。

4. 惣菜DI：6.1（やや好調）

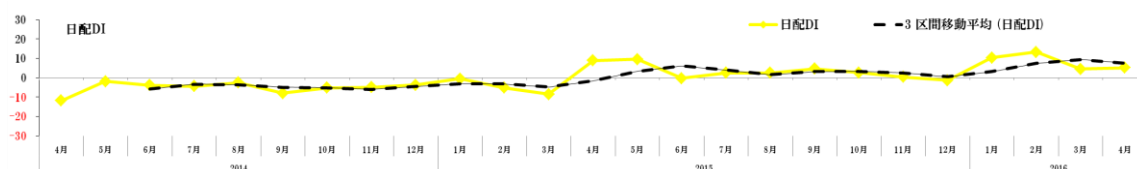
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.1	19.8	38.6	31.0	6.6	4.1
惣菜（当月）	3.7	15.9	42.7	28.0	9.8	6.1



花見シーズンが4月にずれ込んだことで好調となったが、天候不順により、伸び悩んだ地域もみられた。週末に好天に恵まれ、行楽需要が高まった地域では、弁当やおつまみ、オードブルなど好調に推移しました。気温の変化が大きく、売れ筋が変化したため、対応に苦慮したとのコメントが散見されました。人手不足で需要に対応しきれなかったという指摘もあります。

5. 日配DI：5.1（やや好調）

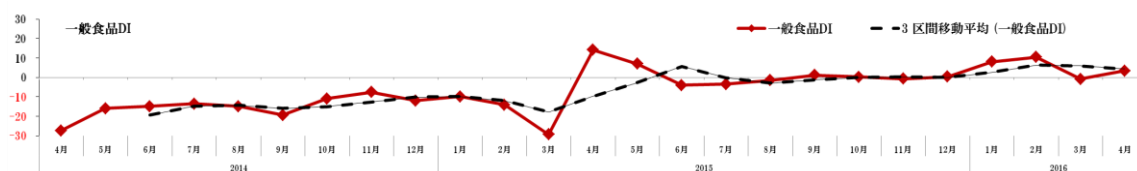
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.6	20.9	37.8	33.7	5.1	4.5
日配（当月）	1.8	18.0	43.1	32.3	4.8	5.1



前半は全国的に気温が上昇し、涼味関連商材（アイスやデザート、麺）などが好調に推移しました。一方で、気温の変化が大きく、売れ筋が変化したため、対応に苦慮したとのコメントが散見されました。引き続き、機能性ヨーグルトや乳酸菌飲料が好調となっています。熊本地震により九州地区を中心に、納豆やパンなどで商品供給に影響がありました。ドラッグストアやディスカウントストアなどとの競合による価格競争の厳しいとの指摘もあります。

6. 一般食品：3.4（やや好調）

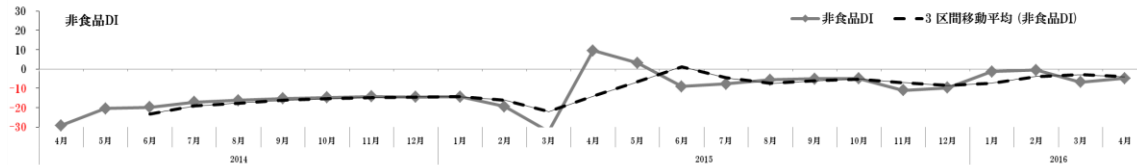
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.0	27.4	42.1	24.4	3.0	-0.8
一般食品（当月）	3.0	19.6	42.9	29.8	4.8	3.4



気温の上昇や、行楽需要により飲料や酒類、お弁当商材などが好調。米は昨年の不振だった反動から好調に推移しています。中旬以降は、熊本地震の影響で水、カップ麺、缶詰、レトルトなど備蓄商品が大幅に売り上げを伸ばしました。ドラッグストアやディスカウントストアなどとの競合による価格競争の厳しいとの指摘もあります。

7. 非食品 DI：-4.8（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.5	32.6	36.8	17.9	3.2	-6.8
非食品（当月）	6.8	30.2	42.6	16.0	4.3	-4.8



他業態との競合で厳しい状況にあります。行楽関連が好調とのコメントが散見されました。地震発生以降は、マスクや懐中電灯、乾電池など非常用品の需要が高まりました。たばこが値上げを受けて不調となっています。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2016年5月調査（4月実績）キーワードTOP3

1. 気温上昇（気温の変化が激しい）
2. 前年に比べ、土曜日が一日多い
3. 熊本地震の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 174社
 3月実績確報版 210社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp